

2-4

特養入所者の社会参加への取り組み

入所利用者様の地域ボランティア活動への参加

特養入所者の社会参加

個人の中の役割意識

特別養護老人ホーム ひかり苑

発表者：介護副主任 谷口 博昭	共同研究者：デイケアセンター美住 所長 仙洞田洋登
所在地：東村山市 富士見町 2-7-40	共同研究者：ひかり苑 副園長 守山文雄
TEL：042-398-1801	E-mail：hikari-sc@douen.jp
FAX：042-398-1804	URL：hikarien.jp

今回の発表の施設 またはサービスの 概要	ひかり苑は、社会福祉法人 恩賜財団 東京都同胞援護会の5番目の特別養護老人ホームとして、平成9年4月に東村山市に開所いたしました。また、東村山市では2番目に新しく、ご利用者数50名・ショートステイ4名が利用されています。
----------------------------	--

〈取り組んだ課題〉

- ・ 利用者様の「生活の中での役割」の創出を目標とする。
- ・ 他の事業所（知的障害者）ご利用の方と当特養入所者様が、公共事業を協働し施行する。施行に対し、心身の維持向上及び変化を評価する。
- ・ 当施設独自の評価スケールからモデルとして推奨された2名の利用者様の機能が、作業に対し適合するか否かを評価する。
- ・ 原則的発想として、地域の社会資源を活用することを計画・実行する。
- ・ 利用者様が地域へ、再社会参加の可否を評価する。

〈具体的な取り組み〉

- ・ 平成20年7月から東村山市ボランティアセンター主催の「清掃ボラ」に参加する。
- ・ 市内の知的障害者作業所の利用者様が施行している活動であるため、利用者様同士の関わりが必要である。
- ・ 施行する際、適応が期待される利用者様を理学療法士が設定し、当施設独自のスケールにて2名の利用者様を選出した。
- ・ 平成20年夏から計7回施行し、開始前と開始後の2名の利用者様の身体機能、精神機能に向上が認められたか否かを評価する。
- ・ 「生活の中における役割創出」として評価を行う。

〈活動の成果と評価〉

- ・ 参加された方の身体機能・精神機能が向上する。
- ・ 他事業所のご利用者様との合同活動が完遂する。
- ・ 社会資源を活用した活動として、制限時間内に与えられた業務を継続し無事実行した。
- ・ 当施設の評価スケール実用性を確認できた。
- ・ 理学療法士による訓練以外においても、機能訓練効果が確認できた。
- ・ 参加利用者様の「清掃活動」によって社会参加、貢献しているという意識が確立された。

〈今後の課題〉

- ・ 当活動の施行担当の統一と施行可能なスタッフを教育及び増員する。
- ・ 今回の課題を施行した結果、選出した2名様の維持向上が認められ、次期適応者を検討する。
- ・ 今後は、設定された評価スケールを新規ご入居者様の初回アセスメントで使い、入居中のサービス方針決定を明確化する。
- ・ 現利用者様へもスケールを用いて、方針の再検討を行う。
- ・ 機能向上効果は認められたが、サービスカテゴリ分けの評価を介護職員が行うにあたり、評価技能の徹底が重要である。
- ・ 施設の地域へのアピール効果を期待したい。

【メモ欄】